

発電所での発電機器・定期点検時の防錆管理(保管) 1/3

原子力発電所・火力発電所・水力発電所では、定期的に点検整備が行われます。点検整備期間は、1～4ヶ月間程度と想定されます。※規模・内容で異なります。その際の防錆管理へのご提案をします。

背景

点検整備作業は、次の2ケースがあります。

発電所内の点検整備用エリア(室)



屋外に設置されたテント倉庫



テント倉庫(6棟)

タービン系統 R-060BR型/設置状況



タービンへ除湿乾燥
空気を送風
タービン R-060BR型×2台

復水器系統 R-060BR型/設置状況



復水器へ除湿乾燥
空気を送風
R-060BR型

低圧給水加熱器系統 R-061R型/設置状況



レンタル機・付設ブレーカ R-061R型



処理出口部より除湿乾燥空気を
低圧給水加熱器へ送風
低圧給水加熱器

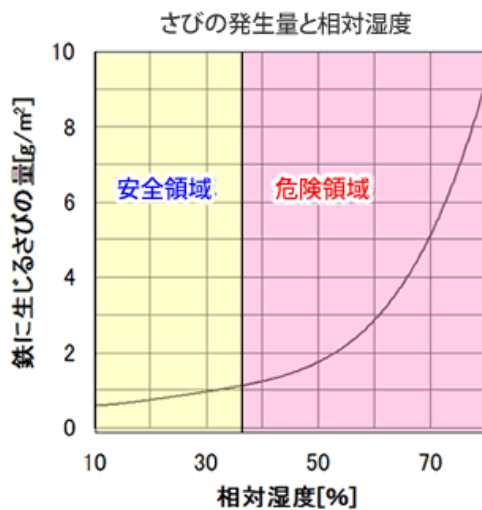
発電所での発電機器・定期点検時の防錆管理(保管) 2/3

問題点

定期点検中の課題の1つに、サビ防止があります。

錆発生 の 時期・要因

- ①梅雨時・高温多湿な夏季・台風時期の秋・冬の降雨時
- ②気候により、夜間に気温が低下すること。



鉄鋼品は
雰囲気空気の相対湿度が
RH60%以上になると、
急速に発錆が始まります。



雰囲気空気の相対湿度を
RH50%近傍に保持すれば、
錆を防止できます。

定期点検時期は特定の季節に行われるという訳ではありませんので、
どのような気温の時でも除湿できる装置が必要です。
また、必要な時に使用できる除湿機を保有することも重要になります。

解決策

そこで、「**デシカント除湿機**」を提案します。

高性能シリカゲル除湿ロータを搭載したデシカント除湿機は、
気温(温度)にかかわらず、年間を通して除湿できる唯一の除湿装置です。

発電所での発電機器・定期点検時の防錆管理(保管) 3/3

採用例

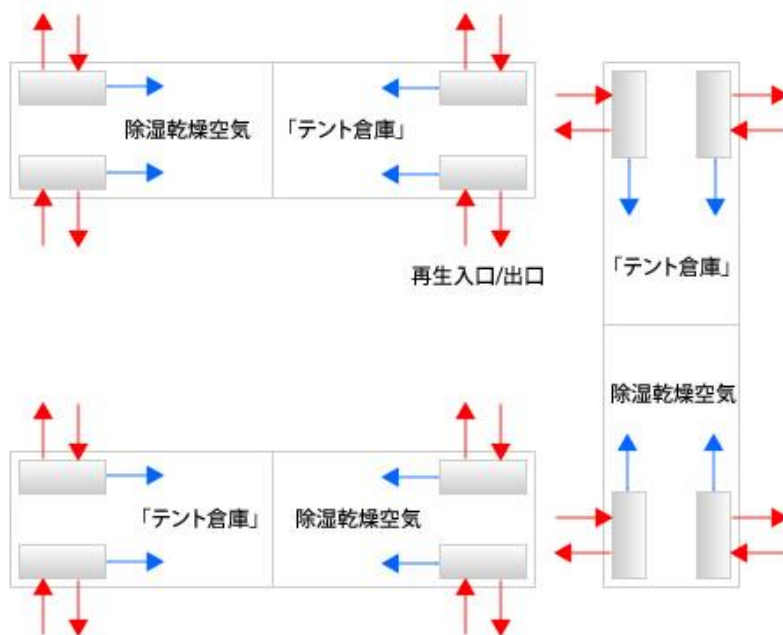
納入地: 某・火力発電所

◎設置状況

- ・テント倉庫・6棟を発電所内に設置
- ・テント倉庫・1棟あたり2台ずつ「デシカント除湿機」を設置
- ・導入した除湿機: R-060BR型
- ・大型発電機器の点検補修の際は、2棟連結のテント倉庫を開閉してテント倉庫内に入れて作業した。

◎結果

- ・テント倉庫の出入口を開放時以外は、防錆条件である相対湿度RH60%以下に保持できた。
- ・天候(降雨)に左右されず、予定工期内で点検作業は終了。



処理出口
アルミ製フレキシブルダクト

再生入口(テント倉庫内)
ポリエステル製フレキシブルダクト

再生出入口(屋外)
ポリエステル製フレキシブルダクト

